



《題字・森神紫陽》

平成27年初盆のお家

喪主	続柄	故人名	命日	享年	出身	初盆の場所
泥谷 文明	父	藤美	平成26年 10月14日	93歳	蜷の崎	横川 蜷の崎
大竹 琴美	義弟	河内太門	10月12日	63歳	仁所倉	8月16日 正定寺
志賀健太郎	父	敏	10月13日	65歳	上の地	8月16日 正定寺
小田 半男	母	マツ子	11月6日	86歳	上の地	仁田原 上の地
甲斐 陽一	母	マサコ	11月14日	91歳	間庭	8月16日 正定寺
飛田 清馬	妻	美枝子	12月1日	61歳	椀杭	仁田原 椀の内
酒井 実	義母	安藤綾子	12月8日	94歳	中道	赤木 中津留
柴田美登里	夫	満	12月16日	61歳	新中	赤木 新中
川股 憲明	父	宏	12月22日	93歳	黒岩	横川 黒岩
松田 忠志	母	キクエ	12月26日	99歳	下堅田	佐伯市 下堅田
渡邊 昭子	義弟	淳夫	平成27年 1月7日	82歳	久留須	赤木 久留須
高橋 和浩	妹	恵美子	1月14日	35歳	間庭	8月16日 正定寺
柳井 則幸	母	マチエ	1月30日	93歳	市屋敷	赤木 市屋敷
御手洗 清	父	正雄	2月8日	93歳	江河内	蒲江 畑野浦
廣瀬 精治	母	イソ子	2月15日	102歳	中道	赤木 中津留
柳井 孝義	母	マキエ	2月19日	85歳	細川内	仁田原 細川内
大畑 稔	叔父	大竹良一	3月28日	70歳	羽木	横川 羽木
甲斐 義信	父	辰己	3月31日	94歳	江河内	下直見 江河内
平井 京子	夫	讓	4月5日	64歳	大鶴	弥生 井崎
小野 力	母	スズエ	4月10日	89歳	黒岩	横川 黒岩
久保田嘉博	父	弘	5月3日	93歳	大鶴	仁田原 大鶴
井上 敏生	母	チズ	5月18日	95歳	神内	大分市 田尻
甲斐 岩夫	妻	瑠璃子	5月24日	77歳	細川内	佐伯市 稲垣
鳴海 例子	夫	次夫	6月3日	65歳	尾浦	蒲江 畑野浦
後藤 武士	妻	久江	6月19日	83歳	立長	赤木 立長

※下記の方は四十九日がお盆を過ぎますので、初盆は来年に行います。7月21日現在

喪主	続柄	故人名	命日	享年	出身
羽明 忠夫	母	トシ子	7月20日	95歳	岸の上

## お盆號（第63號）

正定寺花園会広報

平成27年夏発行 発行所 一部単価135円(非売品)

世話人扱い：230戸 寺直轄扱い：153戸

〒879-3104 大分県佐伯市直川大字仁田原 寶林山正定寺内

TEL0972 (58) 2190 FAX0972 (58) 2192

URL <http://syoji.com/> e-mail [shoji@saiki.tv](mailto:shoji@saiki.tv)

住職 小原南陽 閑栖 小原寿山

# ☆平成27年お盆参りの日程☆

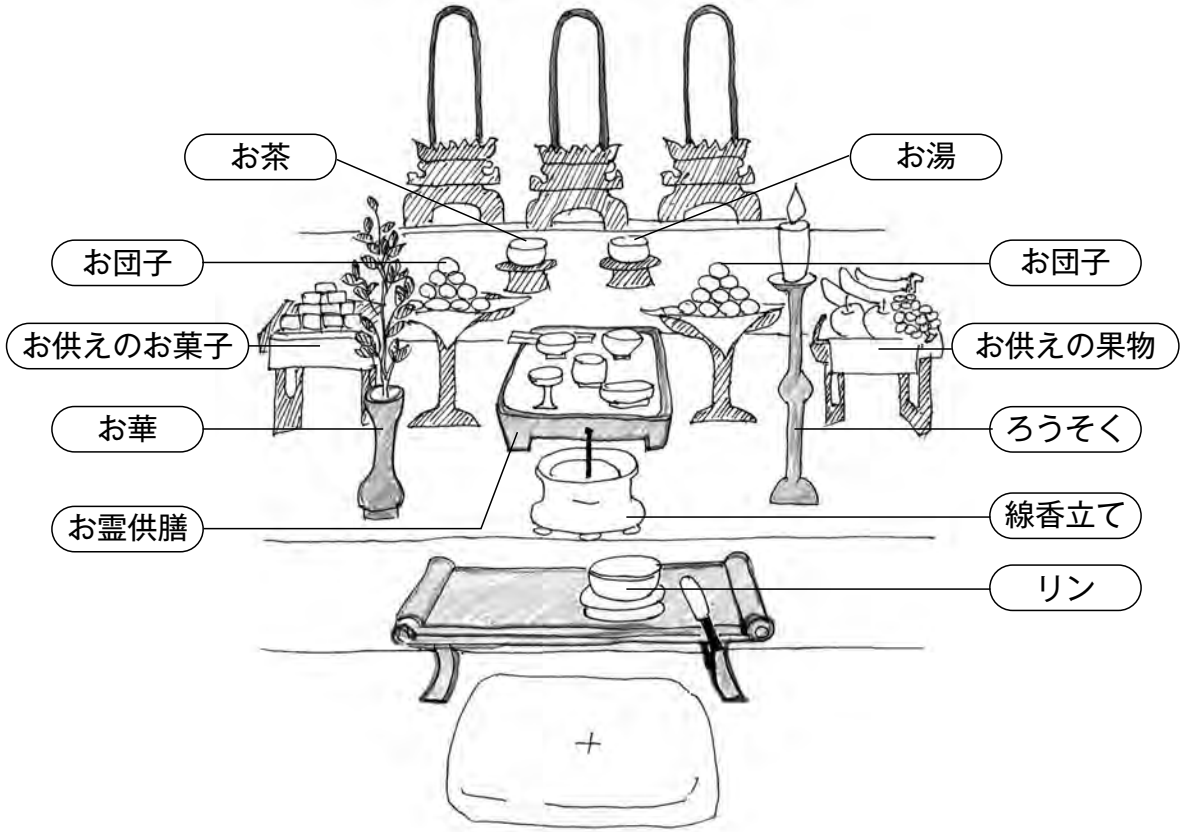
始まりの時間はだいたいの目安にしてください。（定時ではありません）

月 日	曜	日 柄	開始時間～	地 区
8月1日	(土)	盆入り	午前9時～	細川内⇒道の内⇒吹原⇒中津留（赤木）
8月2日	(日)	塚日	午前9時～	野の内⇒堂師⇒栗林⇒向船場
8月3日	(月)		午前9時～	上の地⇒袖の原
8月4日	(火)		午前9時～	用來⇒天津留⇒下城⇒椀ヶ原⇒杭の内⇒本匠⇒弥生
8月5日	(水)	塚日・友引・煤掃き盆	午前9時～	内水⇒寺の下⇒岸の上
8月6日	(木)	平和記念日	午前9時～	新中⇒久留須⇒川又⇒横川
8月7日	(金)	池替え盆	午前9時～	長野⇒立箱⇒市屋敷
8月8日	(土)	立秋	午前9時～	大久保⇒萱垣⇒大鶴⇒学校下⇒神内
8月9日	(日)	井戸・墓掃除	午前9時～	竹の下⇒園⇒中津留⇒仁所倉⇒間庭⇒宇目⇒延岡⇒日向
8月10日	(月)		午前9時～	神の原⇒江河内⇒水口⇒間
8月11日	(火)	友引・花取り盆	午前9時～	黒岩⇒鶴望⇒王子丸⇒海崎⇒野岡⇒女島⇒常盤⇒城南
8月12日	(水)		午前10時～	堅田⇒稲垣⇒鶴岡⇒古市⇒宇佐⇒別府
8月13日	(木)	草刈り盆・精霊迎え盆	午前10時～	賀来⇒田尻⇒光吉⇒敷戸⇒鶴崎⇒臼杵市⇒弥生
8月14日	(金)	盂蘭盆	午前10時～	畑の浦⇒尾浦⇒鶴見
8月15日	(土)	友引・盂蘭盆・精霊流し	午前10時～	仁田原⇒赤木⇒直見⇒弥生（初盆）
8月16日	(日)	精霊送り盆・盆明け	午前11時	遠地各家の位牌堂諷経（盂蘭盆諷経）

## お盆期間中のお知らせ

- ① 本年も住職が全てお参りする予定ですが、葬儀・天候などで加担僧にお願いする場合があります。
- ② 葬儀や天候の都合で日程を延ばす場合は、午前9時までに地区世話人様にご連絡致します。
- ③ 昼休み（昼食時）にお参りする場合がありますのでご承知ください。
- ④ 直川内で雨天（大雨）の場合、足袋・衣が濡れ、皆さまにご迷惑をお掛けしますので座敷に上がりず、草鞋・合羽でお参りを致します。（軒先でのお勤めを致します。）
- ⑤ 台風などの延期に伴い14日の地区が16日以降に成ることが有ります。
- ⑥ 留守の家は外からお経を上げさせて戴きますので、カギは閉めてお布施は近所にお預けください。
- ⑦ 1日～16日の間は、盆中のため本堂を会場にしての葬儀が出来ませんので葬儀の場合は「自宅」もしくは「斎場」で行うようにご協力ください。又、伴僧（役僧）の手配が難しい場合がありますのでご了承ください。

# 基本的な飾り付け



- 御先祖位牌を中央奥に祀り、右側から古い御先祖さまを祀ります。
- 新亡家では、新亡位牌を中央に祀ります。初盆のお家は、ご先祖佛壇を閉じておきます。
- お華は、シキビでも色花でもホオズキでも結構です。



## 《正定寺花園会役員名簿》

花園会役員(檀徒総代) 小野 晴生  
 花園会役員(檀徒総代) 御手洗 廣美  
 花園会役員(檀徒総代) 安藤 与治郎  
 花園会役員(檀徒総代) 久保田 栄二  
 花園会役員(檀徒総代) 村西 栄  
 河野 豊美  
 柳井 芳子  
 飛河 浩美  
 平井 幸司  
 河村 典邦  
 小田 聖孝

## 《正定寺花園会地区世話人名簿》

内水地区 戸高 浅生  
 椈杭地区 御手洗 堅  
 岸の上地区 簗戸 寅夫  
 上の地区 小野美智治  
 細川内地区 小野二三雄  
 柚の原地区 林 美春  
 黒岩地区 川股 憲明  
 大鶴地区 久保田和博  
 羽木蜷地区 大竹 正男  
 神の原地区 尾形 一彦  
 神栗地区 武田 敏秋

市屋敷地区 柳井 隆喜  
 堂師地区 広瀬 正也  
 野の内地区 染矢憲一朗  
 立長地区 広瀬 謙治  
 中道地区 安藤 哲也  
 吹原地区 矢野 照雄  
 久留須新中地区 安藤 秀明  
 竹園地区 竹下 裕  
 江内道越地区 吉内 良金  
 尾浦地区 山本 源義

花園会会計監査委員 竹下 堅裕  
 花園会会計監査委員 御手洗 松 堅裕  
 花園会女性部会計監査委員 戸高 松 栄  
 花園会女性部会計監査委員 戸高 夕力 三

◆お盆まいり各家別の棚経日程◆

○は世話人

8月1日(土)					
細川内⇒道の内⇒吹原⇒中津留(赤木)					
園田ツヤ子 御手洗晴視 山内 一平 安藤 健辞	→ 小田木聖孝 ○小野二三雄 宮下 與	御手洗麗子 安藤 鉄也 後藤富士夫	柳井順一郎 安藤 慶喜 柳井 道則	小野 浩伸 安藤 久男 ○安藤 哲也	井崎 敏行 ○矢野 照雄 広瀬 茂弘
8月2日(日)					
野の内⇒堂師⇒栗林⇒向船場					
岩佐 昭一 宇戸ミヤ子 ○広瀬 正也 武田 雄二	→ ○染矢憲一朗 安藤 愛子 野村 浩史 甲斐 興宣	後藤 政子 伊東 好文 羽明 忠義 甲斐 一男	後藤 保代 川野 剛 川野登志郎 武田 博	岩崎 政徳 御手洗欣也 ○武田 敏秋 星野 真澄	川野 貴重 阿部 英治 森下 モキ 星野 真一
8月3日(月)					
上の地⇒柚の原					
○小野美智治 野々下 博 染矢 昭一 岡田 喜敏 山口 直哉	→ 古矢 長生 曾根田千鳥 志賀健一郎 ○林 美春	近藤 正視 小野 潔 小野 富生 山下 雄平	植田 純市 河野 辰巳 染矢 豊喜 林 裕人	志賀 満 小野 道夫 小野 哲夫 岡田伊勢夫	石川 時彦 小野 泰雄 鉄山 宗始 橋迫 寿生
8月4日(火)					
用來⇒天津留⇒下城⇒椈ヶ原⇒杭の内⇒本匠⇒弥生					
加藤 隆美 戸高 恒喜 飛田 和政 岩崎 洋子	→ 宮脇 敬 御手洗豊喜 飛田 幸幾 片岡 哲也	工藤 信幸 柳井 正道 飛田 郁 吉田 新一	小野 賀一 小野 幾夫 飛田 芳海	○御手洗 堅 小野 征夫 御手洗恭子	御手洗 哲 佐脇 廣栄 岩崎 正人
8月5日(水)					
内水⇒寺の下⇒岸の上					
小野 秀喜 ○戸高 浅生 桜井 孝 桜井 淳一	→ 山元 都 戸高 勝馬 櫻井 有一 簀戸 猪文	戸高 忠 戸高 直人 桜井 洋紀 櫻井 孝平	小野 恒存 松井 文生 ○簀戸 寅夫 櫻井 米士	小野 邦彦 山下 一博 簀戸 健二 原 豊喜	戸高 恒子 戸高 壽生 簀戸 茂一 御手洗貞子
8月6日(木)					
新中⇒久留須⇒川又⇒横川					
柳井みはる 柴田スミ子 安藤 哲也 五十川正人	→ 杉野 良雄 安藤 道紀 安藤 義博 大原 節江	簀戸 功吉 星野喜三男 大司 八郎 ○大竹 正男	矢野 薫 ○安藤 秀明 小野 広太	飛田 茂子 安藤 廣美 竹尾 良彦	小野 哲生 安藤 征一 深田加津昭
8月7日(金)					
長野⇒立箱⇒市屋敷					
柳井 昌之 ○広瀬 謙治 柳井 律子 柳井 清浩	→ 安藤 美喜 廣瀬 芳見 柳井 百人	高橋 忠男 立箱 和人 阿部 茂美	染矢 朝子 廣瀬 広美 安藤 智公	後藤 時子 柳井 淳 安藤 郁	広瀬伊久生 ○柳井 隆喜 安藤 税
8月8日(土)					
大久保⇒萱垣⇒大鶴⇒学校下⇒神内					
大久保保美 三浦 清弘 三浦 幸一 立箱 貞夫	→ 戸高小恵子 久保田 忍 三浦 伸雄 平井 均和	大竹 琴美 下川 京一 久保田康彦 平井 正和	三浦 學 ○久保田和博 染矢 順一	平井 健吾 久保田与治郎 小野二三子	久保田英治 三浦 伸一 小野 和行
8月9日(日)					
竹の下⇒園⇒中津留⇒仁所倉⇒間庭⇒宇目⇒延岡⇒日向市					
大村 芳男 大畑 利春 高原 幸吉 河野 宏	→ 竹元 詔二 吉田圭一郎 甲斐 健平 五十川邦廣	古元 親夫 谷崎 博文 佐山 長利 柳川 隆徳	○竹下 裕 簀戸 精一 御手洗知佐子	竹中 道治 水久保雄二 小戸タマエ	竹中 裕子 吉田 春道 後藤 廣



◆お盆まいり各家別の棚経日程◆

8月10日(月)											
神の原⇒江河内⇒水口⇒間											
尾形 利勝	➡	安藤 康正	甲斐 五月	甲斐 律男	足立 米壽	甲斐 朝美	○尾形 一彦	鴨尾 利夫	○吉内 良金	吉内 達也	甲斐 典昭
吉田 勇		吉田 豊	小野 一人	小野 永生	河野 林	甲斐 照光	飛田 幸平	河村 昌江	柳井 滋敏	飛河 浩美	
8月11日(火)											
黒岩⇒鶴望⇒王子丸⇒海崎⇒野岡⇒女島⇒常盤⇒城南											
小野 寛	➡	木下 智明	矢野 尚武	染矢 和陽	鳴海 陽子	守永 晃男	吉田八重子	菅 利弘	菅 康子	鳴海浩一郎	甲斐 誠
御手洗利美		佐藤 元	吉田 君江	長友 秀勝	御手洗一樹	平川 博道	越智 久子	安藤 太	矢野 喜一		
8月12日(水)											
堅田⇒稲垣⇒鶴岡⇒古市⇒宇佐⇒別府											
松田 忠志(初)	➡	吉田 博昭	渡邊 靖子	新留 正次	甲斐 岩夫(初)	仲宮 哲男	鳴海 三吉	佐藤スヱカ	山口 正春	小野 治重	鳴海 君子
小野 勝本		宮脇 晃	鳴海 廣数	山口 隆弘	永川 厚	小野 庫太					
8月13日(木)											
賀来⇒千代町⇒花園⇒田尻⇒光吉⇒ふじが丘⇒敷戸⇒鶴崎⇒臼杵市⇒弥生											
竹田 宏充	➡	久保田慶史郎	安藤 昭彦	井上 敏生(初)	吉田 直純	新 哲一	甲斐 憲司	甲斐 茂喜	小野 文永	田中 隆一	柳井 邦宏
小野 勝		甲斐 政信	国本 成昭	御手洗基茂		小野 衛					
8月14日(金)											
畑の浦⇒尾浦⇒鶴見											
塩月 文磨	➡	御手洗 清(初)	鳴海 三好	鳴海 達男	鳴海トキ子	富高 和夫	鳴海 例子(初)	鳴海 隆子	吉田 源蔵	鳴海 健二	鳴海 龍
鳴海 由久		鳴海 信吾	山本 春男	木下保治郎	山本伊勢治	鳴海雄二郎	鳴海 勝也	鳴海 勇	○山本 源義	山田 佐一	
8月15日(土)											
初盆各家											
飛田 清馬	➡	柳井 孝義	小田 半男	○川股 憲明	小野 力	泥谷 文明	久保田嘉博	大畑 稔	後藤 武士	柳井 則幸	広瀬 精治
柴田美登里		渡辺 昭子	甲斐 義信	平井 京子		酒井 実					

位牌堂諷経 {遠地や仕事(過去を参照)などの都合で自宅へお参りが出来ないお家のお盆経}

8月16日(日)午前11:00 法要											
甲斐 陽一(初盆)	高橋 和浩(初盆)	故志賀 敏(初盆)	故河内太門(初盆)	菅宮ワカ子(千葉)	甲斐 昭郎(東京)						
井上 基(新潟)	矢野 恵子(栃木)	高野 澄代(埼玉)	葛城幸一郎(千葉)	矢野 俊行(神奈川)	御手洗和司(愛知)						
藤村 道雄(東京)	小椋喜見子(東京)	荒牧 忠義(神奈川)	矢野 雅章(神奈川)	森神 喜伴(大阪)	中岡 潤子(大阪)						
長田 文明(大分)	河野 清美(京都)	小野 潔(京都)	岡部 信一(大阪)	林 清登(兵庫)	佐藤 和久(岡山)						
郷原健一郎(大阪)	河野 邦彦(大阪)	鳴海 良太(大分)	大津ツヨミ(宮崎)	笠村 幸一(福岡)	小田 幸子(福岡)						
安藤 泰生(岡山)	立箱 幸子(広島)	荻本 雅章(福岡)	田野 康行(福岡)	岩佐 利通(大分)	橋本 勇(大分)						
三浦 一人(福岡)	安藤 公喜(福岡)	山内 宏(佐賀)	鴨尾 初恵(熊本)	鳴海千恵子(大分)	岡部三喜夫(大分)						
武田 耕二(大分)	簗戸 健(佐伯)	宮下 浩一(佐伯)	宮脇 更生(佐伯)	染矢 邦正(佐伯)	御手洗正人(佐伯)						
岡本みどり(佐伯)	小野マス工(佐伯)	成松 文雄(佐伯)	戸高由美子(佐伯)	工藤 義弘(佐伯)	高野 敏夫(佐伯)						
小野 勇一(佐伯)	三股 忠芳(佐伯)	佐竹 徹幸(佐伯)	佐藤ミツ工(佐伯)	三宮 久人(佐伯)	三根 千鶴(佐伯)						
山下 繁彦(佐伯)	松田 哲郎(佐伯)	森下 修(佐伯)	加木 制子(佐伯)	川股 久道(佐伯)	川野 恵美(佐伯)						
村上 弥策(佐伯)	村西 栄二(佐伯)	吉内 耕二(佐伯)	大石 幸子(佐伯)	後藤ノフ工(佐伯)	御手洗 環(佐伯)						
工藤 哲生(佐伯)	広瀬 宏子(佐伯)	島田 裕子(佐伯)	山畑 実(佐伯)	平井 清源(佐伯)	林 亀(佐伯)						
泥谷 新一(佐伯)	渡辺 邦子(佐伯)	佐竹 伸幸(佐伯)	富永 眞光(佐伯)	山内 文男(佐伯)	山田 桂子(佐伯)						
広瀬 豊喜(佐伯)	永富マツ工(佐伯)	染矢 一也(佐伯)	菅根田味喜男(大分)	高橋 慶太(佐伯)							
				初盆供養各家	永代供養各家						

8月16日にご回向する方の中で、今年のお盆経は仕事のお休みが取れて、該当地域の巡経と同じ日を希望する方は前々日までに通知下さればお伺いできると思います。また当日、留守の檀家さんは事前に連絡をお願い致します。留守の場合の日程変更は対応が出来かねますので、8月16日午前11:00から位牌堂でご先祖諷経を申しあげます。

# お盆のあれこれ

8月13日

むかえぼん  
迎え盆  
くさきりぼん  
草切り盆

8月13日を「草切り盆・迎え盆」と呼びます。  
牛馬を飼っていた頃、日が明けぬ朝早くから野山に出かけ、牛馬のエサ(草)を刈りに行った経験は有りませんか。  
盆の間は、大切なご先祖さまをお迎えするので牛馬の世話をしなくて済むようにと、たくさんのおエサを蓄えるこの日を「草切り盆」と言います。

むかえび  
迎え火

早めにお墓にお参りして、夕刻になると「迎え火」を灯します。この「迎え火」を門火・庭燎とも言います。日没に自宅の門口で目印の松明を焚きご先祖を迎えます。松明の代わりに縁側に提灯を灯すところもあります。  
古くは、提灯に火を灯してお墓までご先祖さまをお迎えに行っていました。間違って14日にお迎えに行っているお家がありますが、ご先祖さまのお帰りは13日ですよ。

あらいかけ  
洗い桶

13日の夕刻には、縁側の戸を開けて、帰ってこられたご先祖さまの足を洗うための「洗い桶」を用意します。  
供養されない迷った霊は「お化け」といい、足が有りませんが、ご先祖さまは皆さまから供養されているので足が有りませぬ。翌朝、「洗い桶の水が濁っている」と言うのは、ご先祖さまがお帰りになった証かも知れません。

ご縁

さて、ご先祖さまが縁側から帰って来るには理由があります。みなさんの家で、生涯を過ごす大切な方の出入り口は全て縁側を正式としていたからです。  
みなさんも嫁いでこられた時、縁側から入ってきませんでしたか。  
お嫁さんに出るときも、お嫁さんを迎えるときも縁側を出入り口としていました。  
『うちの娘もご縁があって〇〇家に嫁ぐようになりました』とは、ここから出た言葉なのです。  
生涯をその家で過ごし、人生の臨終を迎えてお亡くなりになった時も、縁側から出棺して浄土へ旅立ちます。

きゅうりのうま  
胡瓜の馬

年老いて足腰が不自由で、帰って来るのが遅いご先祖さまもいるかも知れません。そこで、胡瓜に竹の足をつけて馬に見立て、お墓にお供えます。これを「胡瓜の馬」と言います。  
「馬に乗って早く帰って来て」と願う気持ちからです。  
又、どんなに遅い方でも13日中には戻ってこれると言われるので、縁側の戸を閉めるのは13日の夜中12時過ぎ(14日)なのです。

こうじき  
香食

13日の夜中、全員のご先祖さまが戻られた頃、仏壇にお明かりを灯し線香を立てます。  
線香の香りがご先祖さまの最初のおもてなしです。中国では「香食」と呼んでいます。香りが死者の食べ物なのです。線香立ての灰もきれいにしておきましょう。  
灯したロウソクが揺らぐと『ホラ！帰って来られた』と昔の人は言っていました。

8月1日

みちつくりぼん  
路作り盆

8月1日を「盆入り」と呼びます。文字通りお盆の月に入った事を示します。又、お墓や墓道の草切りを始める日なので、「路作り盆」とも言います。  
日本での盆は、推古天皇十四年(606年)の7月15日(中元)に行なったのが最初と言われています。現在の日本では、7月盆と月遅れ盆(8月盆)とあり、東日本は7月盆が多く、西日本では8月盆が多く見られます。九州でも宮崎や熊本・沖縄の一部を除いては、8月にお盆の行事を行っています。旧暦の7月15日に行なう地方もあります。

8月5日

すすはきぼん  
煤掃き盆

8月5日を「煤掃き盆」と呼び、お盆の準備のために、家のスス払いや掃除をします。遠くで働く家族や親戚がお盆には戻ってきます。この日からそろそろお嫁さんは忙しくなります。

8月7日

いけかえぼん  
池替え盆

8月7日を「七夕」・「池替え盆」と呼びます。  
お盆が近づくこの日は、身の回りをきれいにする日とされています。昔から体を清るために沐浴(水浴び)をしたり、髪を洗ったり、牛馬に水浴びをさせたりしました。  
水浴びを「ねむり流し・ねぶた流し」などと呼ぶところもあります。青森の「ねぶた祭り」もご先祖を迎える準備として、身の回りの「邪気(腫魔)」を追い払い清める行事です。  
水に流すことで願いを叶える風習は、7月7日の「たなばた」の行事からもうかがえます。  
又、「池替え」とは井戸さらいの事で、井戸の掃除や墓の掃除から仏壇の位牌や仏具まで、きれいに洗い流す日とされています。中国では、墓参りを「掃苔」と呼びます。文字通り墓に付いた苔を取り掃く事です。新盆を迎える家は、この日から飾り付けを行います。新盆供養の盆提灯もこの日に間に合うように送ります。

8月11日

はなとりぼん  
花取り盆

8月11日を「花取り盆」と呼びます。  
お盆のお仏壇やお墓にお供える花を準備する日の事です。  
花は「檜・樺・シキミ」の事です。木偏に佛と書いて「シキミ」・木偏に神と書いて「サカキ」と読みます。仏さまにお供える花は、「シキミ」・神さまには「サカキ」です。「シキミ」を「シキビ」と訛って私たちは呼んでいます。もともと、「シキミの木」は毒性が強く、土葬した遺体を野犬やおおかみ等の野獣から守るために、用いられました。お墓にシキミを供えるのはこうした理由からです。ヒノキなどの新芽を食べる鹿もシキミの新芽は口にしません。毒があることを知っているからです。この日に準備した花(シキミ)を水に浸し、花が充分に水を吸い上げた頃に、仏壇やお墓にお供えると長持ちすると言います。

# 知ってましたか?



## 水の華

なすび等の生野菜・米・小豆などを混ぜた物を「水の華」又は「水の子」と言いお墓に撒いてあげます。餓鬼道に落ちた亡者は、十分な食べ物を与えられず、体は痩せ細り、喉は極端に細くなっていると言われます。喉が細いので「水の華」は、食べやすいように細かく刻んでいます。又、水の華や線香は残っても決して持ち帰りません。ご先祖さまへの供物は、亡き父・亡き母への供物です。持ち帰ると、「もったいない」と言う欲心があるように思われるからです。親への恩返しに損得はありません。昔の人は、「残った「水の華」に餓鬼が付いて来るから」とそれとなく戒めていました。

## 留守墓参り

お盆の間、誰からも供養されない餓鬼がご先祖さまがいない留守の墓に寄りついているので、ご先祖さまの代わりに、浮かばれない霊に供養するのが「留守墓参り」です。自分だけではなく他の人も救いたいと願う心は、お盆の由来そのものの教えです。禅宗では「まず他の人を救い、その功德で自らも救われる」と言う法要が有ります。これを「施餓鬼会」と言います。「情は人の為ならず」の格言と同じです。正定寺も江戸時代は、7月1日～15日の間は施餓鬼棚を設けて供養がなされていたと記録が残っています。現在は月遅れの8月1日～15日に各家へのお参りになり、「施餓鬼会」は9月の彼岸に法要がなされています。

## 精霊流し

西方丸と書いた小船に供養の品々を供え15日の深夜に川や海に流す風習を「精霊流し」と言います。ご先祖さまの霊は、「送り盆」の16日夜明けに、東から昇る太陽と共に西の西方極楽浄土に無事にお帰りになると言われています。16日送り盆の夜明け、沖に昇るお日さまに間に合うようにと15日の深夜に流します。直川村では、16日の早朝(夜明け前)にお供えした団子や果物などを川へ木板に乗せて流すのが一般的です。

## 8月16日

### 送り盆

8月16日を「送り盆」と言います。15日に送る家もありますが正式には16日です。

## 茄子の牛

茄子に竹の足を付け牛に見立てて仏壇に飾ります。これを「茄子の牛」と言います。牛に乗って「ゆっくり戻って下さい。」と別れを惜しむ風習です。

## 土産の団子

浄土へお戻りになるご先祖さまの「土産の団子」は、少しでも多く持ち帰りが出来るようにと、平らに作ります。丸団子では積み重ねが難しいからです。又、多く担げるようにと「じがるい豆」と言う細長い豆もお供えします。この豆は、束ねたり又担ぎ籠の縄となるように持たせます。

## 送り火

16日の日没にお墓で松明を灯します。この火を「送り火」と言います。ご先祖がお帰りになる場所を示す目印の明かりです。歩くのが遅いご先祖さまも日が沈む頃には無事にお帰りになると言われています。京都の大文字焼きは「送り火」の事です。これで、3泊4日の里帰りが終わります。

## 8月14日・15日

### 盂蘭盆

8月14日と15日を盂蘭盆と言います。

「盂蘭盆経」と言うお経の中には地獄(餓鬼道)に落ちて苦しむ母を救うために、僧侶のお経と「飯・百味・五果」などの馳走を棚にそなえ、その功德を以て救われたと説かれています。

地獄での苦しみは、まるで「逆さ吊り」にされているような苦しみ(倒懸苦)と言われ、この「倒懸苦」をインドの言葉で「ウラバーナ」と言います。「盂蘭盆・うらぼん」の語源です。

私が修行道場にいた頃も、4月15日から7月15日迄の3ヶ月を雨安居と言ひ、その終わりの日(7月15日)を「僧自恣の日」と呼び、寺院では「施餓鬼会」が行われます。お盆の行事はこの仏さまの教えが基になっています。

## 精霊棚

お盆は特別に「精霊棚」を飾ります。「精霊棚」は、仏間の縁側に設けていました。

この棚を「施餓鬼棚」とも言います。和尚さんは「精霊棚」に向かって「お施餓鬼」のお経を唱えます。

今でも、お盆に和尚さんがお参りすることを「棚経」と言います。皆さんの中には、この「施餓鬼棚」でお迎えしていた頃を覚えている人は有りませんか。

納屋の隅にこの「施餓鬼棚」がある家はありますか。

お盆の正式な祀り方は、「施餓鬼棚(精霊棚)」を縁側に飾り付けるものでした。

## 生霊供

生霊供の材料とは、なすび・トウキビ・芋・瓜・洗米など火を加えずには食べられないものです。

これは、餓鬼道に落ちた者は、「食する物が全て火になる」と言われ、生米などの生の穀物を口にするると口元で火が加わりちょうど食べ頃になると言われるからです。

餓鬼はいつも口の中が燃えさかり、ノドが渇くとされています。水の力で「邪気を洗い流す・水で炎を消す・水でノドの渴きを治める」ところから、精霊棚には水が注がれた大きな器が備えられて、水が散けるようになっています。

又、この水を「アカ(閻伽)」と言います。中国の言葉で「供養」と言う意味です。お墓に水を散くのもこうした理由があるからです。

## お供え

お供えは、年忌法要の時と同じように「お霊供膳」・「団子」・「菓子」・「果物」・「茶」・「湯」・「水」と共に、特別に灯笼提灯に見立てて「灯笼菓子」・「ホウズキ」、又畑で採れた「なすび・カボチャ・トウモロコシ等々」をご先祖さまに感謝を込めてお供えします。

# 大般若会

平成27年1月20日（火）午前11時から恒例の大般若会が行われました。

総勢13名の和尚さんが出頭して行われ、200名の参拝者は大般若の転読で巻き上がる「般若の風」を授かりました。

法要後には、定例檀信徒総会が行われ「総代改選・米寿と新成人のお祝い披露」が行われました。

総代改選には、先の寺報で周知した退任総代と再任総代それぞれに新総代について、ご了承を賜りました。

平成27年7月11日に任期満了（任期3年定数4名）を迎える総代さんの中で、甲斐照光氏（88歳下直見）が退任して、新任には久保田与治郎氏（59歳仁田原）が選任されました。

再任は、御手洗晴視氏（71歳仁田原）・小野永生氏（68歳下直見）・安藤廣美氏（65歳赤木）で4名の総代さんと住職を合

わせた5名が総代会の定数となります。

百歳・米寿・新成人の方々へ妙心寺派管長殿下よりお祝いが届き、本堂でご披露されました。

## ◆百歳

松田 キクエ

## ◆米寿

安藤 功

越智 久子

小野 昭和

武田 ヒサ

竹元 タマエ

戸高 芙美子

野の 春子

橋迫 香代子

三浦 一人

宮下 一與

渡辺 昭子

宇戸 ミヤ子

## ◆新成人

安藤 愛美

石川 亜希  
小野 優莉奈  
小野 華穂  
鴨尾 菜摘  
久保田 賢治  
古元 謙悟  
戸高 麻里  
戸高 結花  
仲宮 有紀  
富高 雄平  
御手洗 佳穂  
三根 隼人  
長谷 奈津希  
柳井 駿希  
矢野 夏穂  
山口 夏慶



檀信徒総会と総代挨拶



参拝者の皆さん







今年の福引き景品



お接待のおにぎりをこしらえる  
花園会女性部



餅撒き



お接待と役員女性部の2番座



境内ではたき火がたかれています



除夜の鐘撞きにお参りした檀信徒

平成26年の除夜から平成27年の元旦にかけて大勢の参拝者で境内が一杯になりました。  
雨も降らず位牌堂ではお接待のぜんざいが振る舞われて堂内はとても賑やかです。  
私たちは、当たり前に新年を迎えています、

お盆が近づくにつれてその「当たり前」がどれだけ難しく大切だったかを知ります。  
もうすぐ親しかった方やご家族の初盆がやって来ます。  
仏教行事の教えは、一年を通じて人の「こころ」を問うています。

# 除夜の鐘



# 春 彼 岸



平成27年3月19日（木）午後3時より位牌堂で春彼岸法要と初午会を執り行いました。位牌堂では、40名の参拝者のご先祖さまにご焼香致しました。

法要後には参拝者へ正定寺鎮守さまの「寶林茶吉尼白晨狐王菩薩」のお札が配られました。

本堂に席を移して本山巡教師さんのお説教を拝聴致しました。

今年の本山巡教師さんは大阪府堺市の永元寺副住職であられる池田織隆和尚さまに「おかげさま（社会の恩 生かされ 支えられ）」と題して法話をいただき、参集した檀信徒は真剣に聞き入っていました。

尚、彼岸に合わせて行われる「正定寺杯グラウンドゴルフ」は雨のため中止となりました。



位牌堂で行われた春彼岸法要と初午法要



お説教に聞き入る参集檀信徒

本堂に移動して池田織隆和尚さんのお説教



お説教のあとはお接待女性部の方々が手伝ってくれます。



参拝者の皆さま

# お釈迦さまのお誕生日

4月8日はお釈迦さまのお誕生日です。降誕会と言います。

他にも灌仏会・仏生会・浴仏会・花祭などの名称で行事が行われています。

皆さんは「甘茶でおなじみだ」と思います。

お釈迦さまの誕生に合わせて、龍が天から飛来して、香湯（ソーマ、アムリタ）をそそいだという言い伝えで昔から甘茶を誕生佛にそそぎます。

甘茶はお釈迦さまの産湯です。この甘茶を無病息災のために飲んだり、硯の水に使うと「習字が上達する」とか家の周りに撒くと「まむし除け」になると言われたりします。正定寺では毎



年4月8日は甘茶を用意していますので、是非お参り下さい。今年も大勢の方が甘茶をいただきにきました。

# ほうりょうくっはい 黄龍窟杯グラウンドゴルフ

平成27年4月27日（月）午後1時から佐伯市の佐伯市総合運動公園（多目的グラウンド）で行われました。

佐伯市の妙心寺派寺院より24チーム120名が参加しました。

天候にも恵まれ正定寺からも2チームが参加致しました。

残念ながら今年もチーム・個人共に入賞出来ませんでした。一日楽しい時間を過ごせました。ちなみに今年の優勝は弥生町床木の仙床寺チームでした。



## 正定寺Aチーム

古元 聖人 (78)  
 鴨尾 利夫 (79)  
 矢野 薫 (79)  
 大畑 利春 (76)  
 三浦 伸一 (72)

## 正定寺Bチーム

矢野 侃可 (79)  
 久保田キヨエ (79)  
 竹下 好子 (77)  
 飛河 浩美 (62)  
 大畑記美代 (74)

# 平成27年度花園会役員総会

平成27年度花園会役員総会が6月20日（土）に行われました。

午後7時より位牌堂に奉納された新茶を役員全員で献じて、ご先祖さまに新茶をお供え致しました。

午後7時15分より場所を代えて役員総会が書院で行われ、各議事を審議して無事に午後8時15分に全てを終えました。役員の皆様には、農繁期のお忙しい中総会に参加いただき、まことに有り難く感謝申し上げます。

- ① 第1号議案 平成26年度花園会事業報告について
- ② 第2号議案 平成26年度花園会会計収支決算について
- ③ 監査報告
- ④ 第3号議案 平成27年度花園会事業計画(案)について
- ⑤ 第4号議案 平成27年度花園会会計予算(案)について

その他として監査委員の選出と10月22日～24日に大分市の延命寺で行われる御親化授戒会の因縁戒の説明が行われました。



新総代の久保田与治郎さんの挨拶



午後7:00から位牌堂で行われた献茶会



## 平成27年度花園会事業計画

月 日	事業内容	対象	備考
平成27年4月8日(水)	降誕会	全 檀 信 徒	終日
4月19日(日)	女性部 会計監査	監 査 委 員	
4月27日(日)	第7回九州東教区第2部GG大会		
5月23日(土)	花園会会計監査	監 査 委 員	午後6:30
5月23日(土)	定例総代会	総 代 会	午後6:30
6月20日(土)	平成27年度役員総会	花 園 会 役 員	午後7:00
6月21日(日)	献茶会並びに女性部総会	女 性 部	午後2:00
7月下旬	寺報第63号発行	全 檀 信 徒	
8月1日(土)～16日(日)	お盆の棚経	全 檀 信 徒	
9月8日(火)	第34回花園地方研修会	女性部役員	別府亀の井
9月10日(木)	第21回花園会女性部研修会	女性部役員	別府亀の井
9月21日(月)	山門大施餓鬼法要準備(女性部加勢)	女 性 部	午後2:00
9月22日(火)	山門大施餓鬼法要	全 檀 信 徒	午前11:00
10月5日(月)	正定寺 開基忌(正定寺殿)	全 檀 信 徒	
10月16日(金)	正定寺 開山忌(利翁和尚)	全 檀 信 徒	
10月22日(木)～24(土)	御親化授戒会	全 檀 信 徒	大分市延命寺
11月19日(木)	平成27年度秋季特別布教	女性部役員	天徳寺
12月8日(火)	成道会	全 檀 信 徒	
12月下旬	寺報第64号発行	全 檀 信 徒	
12月下旬	女性部忘年会	女 性 部	
12月31日(木)	除夜	全 檀 信 徒	
平成28年1月9日(土)	定例 総代会	総 代 役 員	午後6:00
1月19日(火)	大般若会役員準備	女性部役員	
1月20日(水)	大般若会・定例檀信徒総会	全 檀 信 徒	
2月15日(月)	涅槃会	全 檀 信 徒	
3月上旬	第8回九州東教区第2部GG大会	全 檀 信 徒	
3月上旬	第11回グラウンドゴルフ大会	全 檀 信 徒	午後1:00
3月上旬	春彼岸会法要と初午会法要	全 檀 信 徒	午後3:00

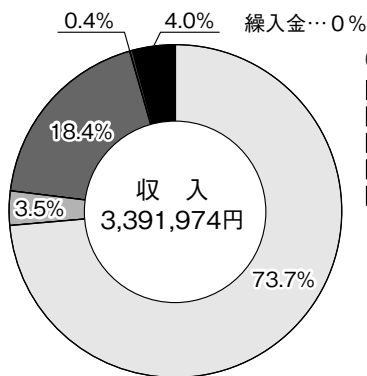
右記以外でも年間行事は行われています。詳細はHPもしくは護符封筒に記載されています。

※降誕会・涅槃会・成道会はお釈迦さまの三佛事  
 ※お盆・彼岸・除夜は仏教行事  
 ※開山忌・開基忌は正定寺祖師毎歳忌  
 ※特別布教は本山行事・地方研修大会は教区行事・第2GG部大会は部内行事  
 ※大般若会・献茶会・初午会・山門施餓鬼は正定寺年中行事

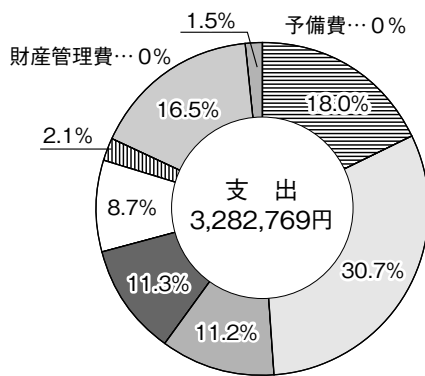


審議する花園会役員

### 平成 26 年度 花園会会計決算



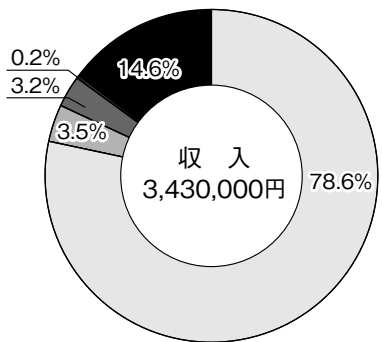
(単位名：%)  
 護持金  
 寄付金  
 繰越金  
 諸収入  
 借入金



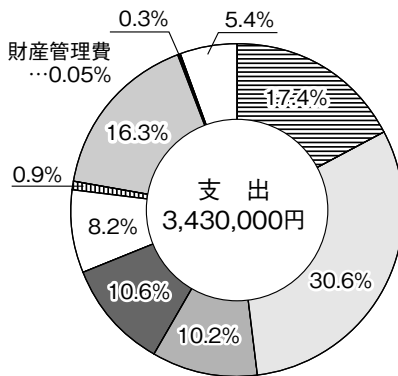
(単位名：%)  
 宗費  
 護持費  
 年中行事費  
 事務費  
 教化布教費  
 諸支出金  
 公課共済費  
 財産管理費  
 償還金・負担金  
 予備費

(収入合計) 3,391,974 円 - (支出合計) 3,282,769 円 = (差引) 109,205 円を平成 27 年度へ繰り越します。

### 平成 27 年度 花園会会計予算



(単位名：%)  
 護持金  
 寄付金  
 繰越金  
 諸収入  
 繰入金  
 借入金



(単位名：%)  
 宗費  
 護持費  
 年中行事費  
 事務費  
 教化布教費  
 諸支出金  
 公課共済費  
 財産管理費  
 償還金・負担金  
 予備費

詳細な金額をお知りになりたい方は、花園会世話人さまか花園会役員さまへお尋ね下さい。



総代会



監査委員会

## 献茶会と平成27年度花園会女性部総会

平成27年6月21日(日) 午後2時の献茶会に31名のお参りがございました。

法要を終えて場所を位牌堂から本堂に移して「平成27年度花園会女性部総会」も行われました。

1年間不在であった部長に河野豊美さんが、副部長に廣瀬芳子さんと柳井久美子さんが就任致しました。

### 平成27年度 花園会女性部 事業計画

月 日	事業内容	対 象	備 考
平成26年4月8日(水)	降誕会	全檀信徒	終日
4月19日(日)	女性部 会計監査	監査委員	正午
6月21日(日)	献茶会並びに女性部総会	女性部	午後2:00
7月下旬	寺報第63号発行	全檀信徒	
8月1日(土)～16日(日)	お盆の棚経	全檀信徒	
9月8日(火)	第34回花園地方研修会	女性部役員	別府亀の井
9月10日(木)	第21回花園会女性部研修会	女性部役員	別府亀の井
9月22日(火)	山門大施餓鬼法要(女性部加勢)	全檀信徒	午前11:00
10月5日(月)	正定寺 開基忌(正定寺殿)	全檀信徒	
10月16日(金)	正定寺 開山忌(利翁和尚)	全檀信徒	
10月22日(木)～24(土)	御親化授戒会	全檀信徒	大分市 延命寺
11月19日(木)	平成27年度秋季特別布教	女性部役員	天徳寺
12月8日(火)	成道会	全檀信徒	
12月下旬	寺報第64号発行	全檀信徒	
12月下旬	女性部忘年会	女性部	
12月31日(木)	除夜	全檀信徒	
1月19日(火)	大般若会役員準備	女性部役員	
1月20日(水)	大般若会・定例檀信徒総会	全檀信徒	
2月15日(月)	涅槃会	全檀信徒	
3月上旬	第8回九州東教区第2部GG大会	全檀信徒	
3月上旬	第11回グラウンドゴルフ大会	全檀信徒	午後1:00
3月上旬	春彼岸会法要と初午会法要	全檀信徒	午後3:00

正定寺は境内地が約2町歩(6000坪)あり、石段・墓地・庭などの掃除を女性の方々に年間4～6回のペースでお願いしてきました。昨今の過疎高齢化で「人員不足」が続いています。庭掃き・草取りの女性を募集(人数制限有)しています。仕事内容は松井ミサホさん(岸の上…58|2715)にお尋ねになって下さい。正定寺檀信徒以外でも大いに歓迎致します。時期は暮年始・両彼岸・お盆前などの行事にかかる掃除です。

境内清掃員の募集



檀信徒さまへ



献茶会でご先祖さまに新茶をお供えします



新部長の河野豊美さんの挨拶



総会資料に目を通す女性部会員



献茶会の参加者

# 甲斐照光総代の退任によせて

本山妙心寺の昭和49年（1974）総代届けの中に、長田良太郎氏（仁田原）・小野綱吉氏（仁田原）・柳井角治氏（赤木）に並んで甲斐照光氏（直見）が正定寺総代の一人として記録に載っています。

当時40代の青年が檀家総代として参加し、今日まで約40年以上の間、住職を補佐して法灯護持にひとかたならぬお世話を賜りました。

洞明寺授戒会では「獨雲閑照居士」を授かり、



左から二人目が甲斐照光さん

平成24年には本山管長さまより、長年の功勞により褒賞を賜りましたことは多く檀信徒の承知するところでございます。甲斐照光総代は僧侶が読経する摩訶般若波羅蜜多心経をはじめ、消災妙吉祥神呪・妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十

五・大悲円満無礙神呪・開甘露門・延命十句觀音經・四弘誓願文・舍利礼文・白隠禪師坐禪和讃・懺悔文・三帰戒などおおかたの經典は全て諳んじて法要や行事では僧侶と共にお経を唱えています。

本山妙心寺への参拝は五回、奥さまは七回を数え佐伯市の臨濟宗檀信徒の中でも特筆すべき檀信徒であることは間違いありません。

私の父（先々代義弘和尚）とは同年と言うこともあって、義弘和尚が遷化後は、ことさら、私の父のような存在として多くの事業運営にかかわっていたいただきました。

今後はお身体を大切にいつものようにご家族でお参りしていただきたいと願っています。

（閑栖筆記）

## 《正定寺との かかわり》

私は亡き母の喜ぶ顔見たさに正定寺にお参りするのを始めた。

昭和二十年頃の盆だと思いが、母に勧められた。

まだ二十才の私にはいささか抵抗を感じたが、その頃の母は父との死別に続いて不幸続きだったので、母の気持ちを感じ参拝した。その日は大変喜んでくれた。

以来四十数年盆と正月の寺参りは欠かしたことはない。

神や仏を尊ぶ事はいい事だと思いが、私の場合には母に云われるままに、そうして苦しい時の神だのみのいわば卑怯な一つの行事に過ぎなかった。

しかし、お陰様で神仏の加護を頂き又、多くの皆さんの御指導も頂いて残り少ない余生を送らせて頂く迄になり、感謝し

ている。

秋も益々深まった。今年の秋は冷たく感じる。シルバーに近づいた証であろう。

又、寺に関する限りかかわりを持たして頂くと思いを新にしているところである。

一、残された人生を生きぬく為により充実した毎日を送る事が出来る様に。

一、美しく老いる事が出来る様

一、老人らしい老人になる事が出来る様に。

正定寺と私のかかわりを作ってくれた母も逝って十一年、きつと喜んでくれると思う。

改めて神仏に祈りたい。

平成元年11月・寺報4号

照光氏本人の寄稿文



# 新任挨拶



大暑の候、檀信徒の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、長きにわたり、総代を務めていただきました役所の大先輩でもあります甲斐照光様の総代ご退任に伴い、創建から492年の名刹の正定寺総代を7月から務めさせていただきますこととなりました。甲斐照光様には本来に長い間、多大なご尽力を賜り檀信徒の一人として、厚くお礼を申し上げます。

げます。ありがとうございます。ありがとうございました。

総代のお話をいただきました折に、今までお寺のことは両親に任せきりで、正定寺のこと、仏教の歴史のこと、本尊である釈迦牟尼世尊の教えなど何も知らない私が、果たして総代が務まるものか、ご迷惑をお掛けするのではないかといろいろな思い悩みましたが、しかし、お話をいただいたことは大変光栄であり、私もあと数年で役所を退職する年齢となり、今まで地域の皆様にて育てていただきました恩返しに、少しでも地域や地域の皆様のお役に立ちたいという強い思いから、浅学菲才を顧みず、総代という大役をお引き受けした次第でございます。

今後は、ご住職をはじめ先輩総代の方々や檀信徒の方々のご指導、ご協力と温かいご厚情にすがりながら、一生懸命法灯護持の務めを果たして参りますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

仁田原大鶴

久保田与治郎



## 香を食とす

昔から「仏さまは香を食とす」という言葉があります。これは仏さまはお香を食事されるという事です。

たちを清い行いに導くだけでなく、人々をさわやかにしなごませる存在になる事を示しています。

むかし修行中に、ある和尚さまから「仏さまのお食事はお香なのだから、よいお香をたててあげんといかん。自分は御馳走を食べたがるくせに、仏さまには安物のお線香をあげて」といましめられた事を思い出します。

法事に向いた時に、子供さんから「和尚さん、仏さまはなぜ、お供えしたものを一つも食べないのにお菓子や果物をお供えするのですか？」という質問をされました。私は「仏さまはね、何も食べないみたいに見えるけど、お供え物の香りだけを食べられるんだよ。お霊具膳のご飯にもよい香りがあるでしょう。バナナにもリンゴにも、みんな良い香りがあるでしょう。仏さまはこの良い香りを食べられているんですよ。」と答えました。

香という字そのものの意味が「よいかおり」という事ですから煙が出るだけではお香とはいえません。最近では香りの少ないお線香があったりしますが、「香の十徳」の中に一、心身を清浄にする。一、能くけがれを除く。一、能く功徳が説かれています。

お香の良い香りは、私

私の説明がわかってくれたのか、その子供はコックリと頭を下げていました。（莊嚴寺寺報より）

## ◆◇◆ 御親化授戒会の因縁戒申込 ◆◇◆

昨年末にご案内申し上げました御親化授戒会は平成27年8月20日まで申込を受け付けています。

10月22日から24日にかけて妙心寺より管長さまをお迎えして大分市延命寺さんで大授戒会が営まれます。九州東では平成16年の国東西白寺にて行われたのが最後です。又、御親化授戒会では管長さまご導師による法要が行われ、檀信徒の先祖供養（因縁戒）も本戒と同様に執り行われます。ここに因縁戒（ご先祖さまの戒名）のご供養を賜りました施主を掲載してご報告申し上げます。院号などを省いて戒名位号と道号のみを掲載しています。

因縁戒	施主名	因縁戒	施主名
寒山素光居士	安藤哲也	法悦妙容大姉	簀戸功吉
千山妙光大姉	安藤哲也	穂緑妙敏大姉	簀戸功吉
春嶽壽光居士	安藤秀明	緑山正道居士	染矢憲一朗
直心夢相居士	安藤廣美	薫風貞涼大姉	染矢憲一朗
華臨公照大姉	安藤廣美	義諦道貫居士	武田敏秋
富善保孝居士	大久保保美	守法大通居士	武田博
景山好節信士	大久保保美	義山清道居士	谷崎博文
夏雲白浪信女	大久保保美	永保功玄居士	戸高浅生
青山豊栄居士	大竹琴美	一関大透居士	戸高浅生
恵雲妙光大姉	大竹琴美	登岳知勝居士	戸高小恵子
嘉心瑛光童子	岡田千壽子	大安養心大姉	戸高小恵子
簾月治照居士	小田木聖孝	久遠善光信士	鳴海浩一郎
文智妙映大姉	小田木聖孝	美妙浩榮信女	鳴海浩一郎
宝山康鐘大居士	小野永生	一乗義貫居士	林寿子
心室智照大姉	小野永生	二尊普照居士	林美春
春風清閑居士	佐伯和可子	政室妙華大姉	林美春
壽光妙艶大姉	佐伯和可子	梅林安照居士	飛河浩美
莞山恵満居士	甲斐浩光	駒光景翠居士	廣瀬謙治
貞室智鏡大姉	甲斐浩光	慈山道繁居士	廣瀬茂弘
活山祖計居士	甲斐龍太	温山宗薫居士	廣瀬茂弘
心鏡妙操大姉	甲斐龍太	法山梅霖居士	御手洗干城
智山了徹居士	鴨尾利夫	心月珠泉大姉	御手洗干城
慈法妙祐大姉	鴨尾利夫	寒月匠堂居士	村西栄二
眞月穩光居士	川野剛	秋月妙道大姉	村西栄二
巖心秀逸居士	河野林	禅岳岱宗居士	柳井淳
玉質妙秀大姉	河野林	夏月涼雲居士	柳井淳
光珠安心清童女	川野真由美	勇山玄茂居士	矢野薫
大鳳良仙居士	久保田与治郎	璃月照江大姉	矢野薫
千秋妙光大姉	久保田与治郎	武岳明善居士	吉内達也
徹心松韻居士	吉内良金	慎重堅道居士	簀戸寅夫
和室貞澄大姉	吉内良金	夏山正意居士	久保田キヨエ
雪峰正閑居士	久保田和博	華山微妙禅尼	小原みどり

〈紙面乍勝手敬称略〉